

JOMA25周年記念・宣教大会

宣教歴史の最後のページ

黙示録5章

デビッド・ヘッセルグレーブ博士

(前略・序論の例話)

黙示録4章11節を見てください。「主よ。われらの神よ。あなたは、栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方です。あなたは万物を創造し、あなたのみこころのゆえに、万物は存在し、また創造されたのですから。」と書かれています。この4章には、創造ということが強調されています。

そして、5章には、贖いということが考察されています。4章には何の質問も、問題もありませんでした。5章に入りますとすぐに問題が起こってきます。それは、巻物があったからです。開かなければならない大切な物でした。しかし、誰もその巻物を開くのにふさわしい方は、天にも、地上にも、地の下にもいませんでした。

これを理解するには、旧約聖書を理解しなければなりません。そして、この旧約聖書を理解するには、新約聖書を理解しなければなりません。これはひとつの本なのです。これはひとつの物語なのです。これは神のひとつの計画なのです。すべてが統一されています。わたしたちは旧約聖書にもどって考えなければなりません。

この預言に対する予表が旧約聖書にたくさんあります。レビ記23章と24章を開くならば、そこに、そのような予表、すなわち、ここで言う贖いの規則が書かれているのです。すべての事がここに書かれているわけではありませんが、これが中心的なことです。これは、イスラエルの贖いの規則なのです。ここには贖われなければならない4つの事が記されています。

また、ここには3つの要求が記されています。その中には2つの巻物が含まれています。そして、一つの贖いの儀式があります。

4つのものが贖われなければならないのですが、それは何でしょうか。家、土地、奴隷、そして、やもめです。3つの要求されている事とは何でしょうか。その贖い主は、その人の親戚関係の者でなければならない。その人

は、そのことが出来る者でなければならない。そして、その人は贖う意志がなければならない、ということです。ここに、2つの巻物が出てきます。一つは天幕にあり、そして宮の中にもう一つ置かれてありました。歴史の後のほうでは一つしかないのですけれど、始め

JOMA 25周年宣教



96/11月の宣教大会
通訳・牧野直之会長

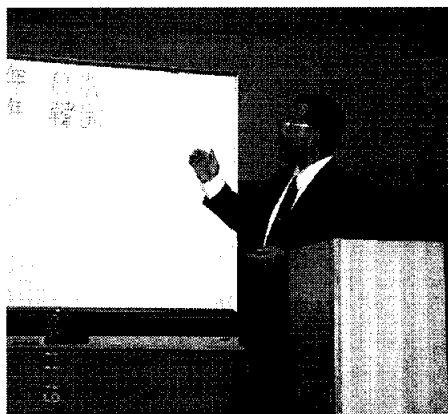
のほうでは二つ巻物があったのです。この巻物は、何だったのでしょか。それには、贖いのための要求事項が書かれてありました。そして、封印がされていたのです。もう一つの巻物にも要求が書かれてあって封印がされていたのです。そして、一つは天幕のなかに、すなわち、神殿のなかに置かれたのです。もう一つのもは外にあったのです。ですから、それは誰でも見ることができたのです。親戚の者は、贖うかどうかを決めることが出来たのです。その巻物は外から中に持ってこられるわけです。長老たちを呼び、長老たちは円陣に座り、儀式が行われるのです。封印がひとつずつ開けられ、壊されていくのです。すべての書かれている要求が満たされなければならないのです。そのすべての要求が満たされたときに、そこにいる人たちすべては「満たされた」と証言するのです。彼らが証人となるのです。そして、その儀式は終わるのです。黙示録5章を理解するために、この旧約聖書に記されている贖いの儀式を理解する必要があります。

もう一つの理解の助けになる旧約聖書の箇所は詩篇二篇です。これは、メシヤ詩篇と呼ばれているものです。この詩篇の記者は、父なる神と子なる神との会話をこの詩篇二篇に書いています。「なぜ国々の人たちは騒ぎ立っているのだ。どうしてつぶやくのだ」と言うのです。地の王たちは神に立ち向かっています。しかし、神は、私は自分の教えをはっきりと示すと言っています。7節には、神は神の定めとして「あなたは、わたしの子、きょうわたしがあなたを生んだ。」と宣言しておら

れるのです。そして8節には、「わたしに求めなさい。そうしたら、わたしはあなたに国々をあなたの嗣業として与える。」とされています。これは、すべての人のために言われています。そして、神はこれに対しての値を払わなければならないのです。国々は、彼のものにならなければならない。サタンや人々が独立を叫んでも、この地上に人たちが立ち向かったとしても、たとえ罪があったとしても、たとえ人々が罪のなかに生きたとしても、たとえ土地が呪われたとしても、父なる神は子なる神に「これはあなたのものになる。」と宣言しておられるのです（中略）。

時間も過ぎてますので、新約聖書を開きたいと思います。ヨハネ19章30節をお開きください。イエス・キリストは十字架上におられました。その箇所を読みます。

「イエスは、酸いぶどう酒を受けられると、『完了した。』と言われた。そして、頭をたれて、霊をお渡しになった。』



主講師のひとり・中村敏師

私は浦和に居た時の事を思い出します。創価学会の人が集会に招いてくれました。私はすぐにその招きに応じました。彼らは私が来ることを期待し、準備していました。様々な人たちが話していました。ひとりの小母さんが、「イエス・キリストは十字架上で『エリ、エリ、サバクタニ』と言ったではないですか。」と言いました。彼女が言っていることは、創価学会で用意している質問を言っているのです。「どうして父なる神様はお見捨てになったのに、そういう事を信じることができるだろうか。」と。



受付のPBA中村姉

宣教会の司会をする内村師



それで、「十字架上で言ったのはそれだけではないのです。」と私は言いました。「イエス・キリストは、その時に、『ペテラスダ』と言われた。それは『完了した』と言うことです。」その当時は、お金を払い終わった時に、『ペテラスダイ』ということばを書いてスタンプを押したのです。『それはもう払い終わった。完済した。』ということばなのです。神によって捨てられたのは一瞬のことです。何故ならば、わたしたちとあなた方の罪を神は背負ってくださったからです。イエス・キリストは私たちの罪の代償を払ったのです。私たちの贖いは完了しているのです。これが、19章30節の意味です。ヨハネ20章31節を理解することも大切です。「しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。」

これは、素晴らしい、偉大なメッセージではないでしょうか。私と皆さんを通して、語るべきメッセージとして、イエスさまが与えてくださったメッセージなのです。そして、ヨハネ20章21節に書かれていることもそうなのです。「父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。」

これが、黙示録5章の背景の一部であります。皆さんは、どうやってこの事が良く分かるようになったのでしょうか。ここに巻物があるのです。この封印を解くことのできる者が誰もいないのです。親戚の者がいないのです。誰もいないのです。そして、声が聞こえたのです。ここにひとりの方がいます。これは、

ユダの獅子と言われる。そして、ダビデの根である方である。この方が巻物を解くことができる。ハレルヤ！そして、すべての人たちが賛美をしたのです。これは、創造の歌ではないのです。これは、贖いの喜びの歌なのです。「ほふられた子羊は、それを受けるにふさわしい方です。」と歌われたのです。彼はその血によって贖ってくださったのです。そして、あらゆる部族、あらゆる国語、あらゆる民族、あらゆる国民の中から私たちを贖い出してくださいました。どのことばからも私たちを贖ってくださったのです。このすべての国語、



午後の分科会風景―その一

すべてのことば、すべての民族、これは宣教的なことばなのです。これは「ピープル・グループ」と呼ばれる民族グループなのです。マタイ28章のことばを使うのではなくて、このことばを使って「ピープルズ・グループ」と呼ぶべきだと私は牧野先生に伝えました。黙示録6章では、巻物の封印を解き始めたのです。ひとつの裁きがあったのです。そして、もう一つの裁きがありました。そして、最後にイエス・キリストは王の王として、主の主とされました。すべてのものはイエスのものである。これが、私たちの語っているメッセージなのです。これが、ここに書かれている話なのです。

皆さん、黙示録は聖書の最後の書です。あなたが宣教師であるなら、黙示録5章を一週間に最低一回は読んでください。もし普通の信徒であるなら、最低一カ月に一回は読んでください。確かに、私たちの人生には難しい

日々があるかもしれません。もっと困難なときがやって来るかもしれません。今直面している問題に、来年、再来年にはもっと大きな問題に直面しているかもしれません。しかし、忠実であってください。そんなに心配しないでください。どうぞ諦めないでください。忠実であってください。その場所に、忠実に出てください。今日の宣教地は、困難の中にあります。そこに、しっかり留まっています。

最後のページ、終局を読んでください。イエス・キリストは創造主であり、贖い主であり、王の王なのであります。そして、主の主なのであります。それが、この宣教の最後のページに書かれているのです（締め括りの例話、省略）。■



分科会風景—その二

97年度総会

日 時：1997年4月7日（月）

場 所：お茶の水 OCCビル、415号室

- A. 97年度の事業案として以下のことを承認した。
1. 25周年記念宣教大会関係小冊子の発行
 2. JOMA通信の発行
 3. 宣教師志願者ハンドブックの改訂増補
 4. Operation World の翻訳、紹介、または、資料提供の検討
- B. JEA国際委員会は、その一部門として、世界宣教部門を設置した。それに伴い、JOMAから平位全一師が、そのメンバーとして加わることを承認した。
- C. 総会は、会計より提示された（別紙）、97年度予算案を承認した。■

JOMAの目的と事業

日本の福音的諸教会の海外宣教部門、並びに、そうした諸教会を背景とした宣教団体、共通の領域での協力をはかり、将来のさらに効果的な海外宣教のあり方を求めることを目的とする。

規約第4条

第一回役員会報告

- A. 総会直後に持たれた役員会では、以下のごとく役員担当を互選で定めた。
- ・ 会 長：松沢 力男（日本ホーリネス）
 - ・ 副会長：上迫 康二（南米宣教会）
 - ・ 書記：森 大（日本イエス・キリスト）
 - ・ 会計：不破 勝美（日本メノナイト・ブレザレン）
- B. 本年度の役員会は、以下の日程で開催されます。ご提案がある場合には、この日程に合わせて、役員会にご提出下さい。
- ・ 9月19日（金） 14：00-17：00
 - ・ 11月14日（金） 14：00-17：00
- C. 担当：
- ・ 25周年記念宣教大会の小冊子発行
上迫 康二師（松沢、不破、平位各師）
 - ・ 宣教師志願者ハンドブック改訂増補
不破 勝美師（稲垣、平位各師）■



分科会風景—その三

中国と香港の学生の現状

劉 東源

黙示録3章7-8では、主がフィラデルフィアにある教会に対して、誉れの言葉と約束を送った。その約束は「誰も閉じない門をあなたの方の前に開いておいた」である。その理由は彼らが力がないにもかかわらず、みことばを守り、主のみ名を否まなかったからである。

中国の教会を考えるとときにこの箇所が一番適切ではないかと思う。主が開いた門は誰も閉じることができないし、またその門は主のご計画によって開いている。1949年には8000人の宣教師が中国にいた。また中国人のクリスチャンは200から300万人が居るのではないかとされていた。しかし、共産党が政権を握った時、宣教師は皆中国から追い出され、中国の教会はどんどん激しい迫害を受けるようになった。特に文化大革命の時代、中国の教会はもうなくなるのではないかと心配された。

1970年代になって、中国が外の世界に門戸を開いたとき、中国の教会が成長したことは多くの人を驚かせた。最近の中国政府の関係者の発表によると、公認教会では700から800万人のクリスチャンがいて、家の教会では、1200万人がいる。政府の発表だけでは、クリスチャンは2000万人いるが、他の推計によると、5000から7000万人のクリスチャンがいるとも言われている。

中国の教会には、「誰も閉じない門」があると思う。また中国の教会は主の守りや導きによって建てられているのも間違いないと思う。中国の宣教を考えると、私たちは主が何をなさっているのかを見極めて、自分の組織や自分の働きを確立するためではなく、本当に主の手足になる必要があると思う。また、私たちも中国の教会から多くのことを学べるし（その伝道の熱心さ、迫害に耐えられる信仰）、一緒に主に謙虚に仕えて行くことができる。

中国との関係の現状

今年になって、中国について三つの大きいニュースがあると思う。（4月7日現在）

1. 2月19日に鄧小平がなくなった
2. 7月1日に香港が中国に返還される
3. 日本と中国との国交を復興の25周年

1. 鄧小平が亡くなったら、特に香港の経済は打撃を受けるだろうということを予想する専門家は少なくなかった。しかし、実際2月19日に鄧小平の死が発表された後、香港の株式市場の株の平均値は4%も上昇した。台湾は3%上昇した。政治的にも中国は安定している。もちろん今後どうなるかはまだわからない。しかし、不安説は全く成就しなかった。

2. 1984年に中国と英国が共同声明を出してから、多くの学者や専門家がいろいろなシナリオを想定した。一番有力になったのは、1997年になると、香港の経済は最低レベルになるだろう。多くの会社や有能な人材は香港から離れるでしょう。一時期はそういう時期もあったが、今の香港の経済は健在で、成長している。不動産の値段も上昇している。多くの人々は移民したが、今は職のために香港に戻っている人も多い。

3. 最近まで、日本と中国の関係は冷え込んでいたともいえる。人権の問題や、核実験の問題や従軍慰安婦問題や、色々な問題があった。しかし、今年になって、多くの政治家は危機感を感じて中国を訪問して、中国とのパイプを太くしようとしている。

イデオロギー問題

中国では、共産主義対資本主義や、共産主義対民主主義の問題が続いているのでしょうか。

共産党員がクリスチャンになっている、また、党幹部がそれを心配していることは日本の新聞にも取り上げられた。それは、千人単位になっている地域もある。共産党員が腐敗している記事もよく出るようになってきている。共産党員の多くは金儲けに走っている。もうすでにイデオロギーの問題より、それがもっと深刻になっている。結局、共産党がイデオロギーより大事にしているのは、面子を保つことと共産党の支配を続けることだと思う。

香港の人々は政治やイデオロギーの問題より、経済のことを気にしている。経済は大丈夫だろうか、まだ自由に商売ができるかという問題は一番心配されている。香港の学生たちはどうだろう。もう7月1日が早く来てほしい。一つの祭りにしかすぎないと思っている。三つのキーワードで表現できると思う。無力感、無気力、世俗主義（物質主義）である。自分の将来は自分で決められないことから来る無力感。すべては中国と英国の政府で決まったこと、今後は共産党や中国の政権が決める。香港の学生は天安門の事件にはいろいろな活動（今も反対運動をする人がいるが）をしたが、自分の主張や意見が聞かれなかったことが無気力の態度を生みだした。自分が何も出来ないから、今は自分が楽しければ良いと思う人が多いのである。

神がない世俗主義

1989年の天安門事件の後、多くの学生や知識人が共産主義に絶望して、神様を求めるようになった。寮（中国の大学の寮は八人部屋が多い）ごとで聖書を研究するグループがたくさんできた。最近も、ある都市では、伝道会に300人ぐらいの学生がきてくれて、100人ぐらいが決心した。多くの人々が求めていることは事実である。しかし同時に中国の経済はこの数年間ずっと10%以上の成長を続けている。中国の国民総生産額は世界の8位（12億人の人口にはまだ当分足りないが）になっている。

その経済の成長は多くの問題をもたらしめている。社会の問題（賄賂、覚醒剤、エイズ、

売春）や人口の都市への流出（都市人口は今21%ぐらいだが2000年には40%以上になる見込み）が目立っている。大学の教授や職員は副業をもっている。ある歴史の学者は観光会社の社長をしている。自分の専門で会社を作ったり、顧問になったりする。大学生たちも将来には裕福な生活ができるように努力している。中国の人口の1.6%しか大学へ行けないので、国が一番望みをおいている学生がもう金儲けに夢中になっていることは将来の心配の種になっている。

中国政府の少数民族や宗教団体への弾圧や迫害は、共産党支配の継続のための手段である。共産党がコントロールできない団体をなくすという目的である。香港に対しては英国が180年間で育ててきた経済を悪化させると自分の面子がなくなるので、一生懸命それが続くように努力するであろう。しかし、これはもうイデオロギーの問題ではなく、世俗主義と物質主義との戦いであろう。

開いてあった門

1. 学生や学者への伝道

大学の教育を受けられるのは人口の1.6%だけである。この人たちが将来の国のリーダーになる可能性が大きい。だから、この働きはとても大事である。

中国での留学生：中国国家教育委員会の発表によると1996年に中国にいる留学生の総数は37,000人である。そして、この年は初めて、韓国からの留学生の人数が日本からの留学生の人数を上回った。韓国と日本の留学生はそれぞれ3分の1ぐらいである。最近、中国の政府は韓国の政府にもう宣教師を送らないようにと伝えたそうである。私も広州で、ある韓国人の留学生と会った。名目上は中国語の学生だが、名刺には、中国への宣教師と英語で書いてあった。中国へ学生として行ったら、私たちがあまり接することのできない国の人々にも会うことができる。北朝鮮やキューバからの学生もいるからだ。

中国からの留学生：文部省の発表によると、1996年に日本にいる留学生の総数は52,921人。

その内、中国からの留学生は44.1%の23,341人。もちろん、密入国の人もあるし、就学（日本語を勉強するために入国）ビザで来て帰らない、不法滞在者も万人単位でおり日本に多くの問題を起こしているが、留学生のビザでくる学生は中国へ帰る人が多い。

私たちはこの開いた門に対して、どう答えるのかは課題だと思う。中国へ学生を送る、せっかく日本に来た中国の留学生に伝道することが考えられる。

2. 職業をもって中国へ

中国は今多くの教師（日本語の教師が特に歓迎される）、学術専門家（日本の経営学学者、コンピュータの専門家、等々）、ビジネスマンを必要としている。1996年に日本大使館に登録していた長期滞在者は上海では5,141人、北京では4,634人もいた。もちろん、それ以上の人がいるであろう。

中国では12億人に対して、188万人の医者しかいない。また、特に内陸部は医療機器や医者、看護婦を必要としている。医療の援助で行くグループは州の知事が歓迎のため出迎えるなど、とても歓迎されている。

神学校の拡充も一つの課題。中国の公認の教会とどういう関係を持つかは課題。しかし、中国の13の神学校には、客員教授、福音的な神学教師、福音的な図書が必要であるし、歓迎されてもいる。今まで、自由主義神学の影響が強かった環境での地道な戦いも大事ではないか。特に、大学生や知識人へのキリスト教の弁証論が必要とされている。1989年に多くの学生がクリスチャンになったが、かれらのニーズはほとんど答えられていない。公認の教会でも、ほとんど内陸部にある家の教会でも、それが出来なかった。また、中国の法律では、18歳以下の伝道は禁じられているので、日曜学校的な働きや青年への働きは難しい。

中国の政府は特に、クリスチャンの専門家が来てほしいとしている。中国での厳しい環境の中で、まじめに働く人はあまりいない。クリスチャンの方が勤勉で倫理の面でも評価されている。また、中国で得られる給料では

献身的でないと、働いていけない。何年間働いても貯金が増えず、自分の帰国の航空券さえ買えないのが現状。教会はもっと組織的にこのような開いた門に答えられるのではないか。

3. ラジオ放送の働き

今までの放送は多くの方々にキリスト教にふれる機会を与えた。中国の大学へ訪問しても、ラジオの福音放送を聞いている人が多い。最近はこの学生への質問に答える番組を作っている。たとえば、‘聖書は信頼できるか’ ‘科学と信仰について’ ‘進化論について’ ‘神様は誰ですか’ ‘キリスト教は西洋の一宗教にすぎないか’ という質問。この働きも私たちのサポートや祈りが必要だと思う。

中国での生活は厳しい。環境の問題だけではなく、カルチャー・ショック以上のストレス（中国風のやり方）もある。何よりは、霊的なニーズをどう満たすかということである。このように、宣教師の身分でもないけれど、学生として、職業を持って、中国で伝道したい方に対して、教会はどのように、牧会的なケアができるか、霊的なサポートができるか、というのが大きな課題である。

お祈り下さい

1. 香港の返還後も礼拝と伝道の自由があるように。経済的には中国の政府はあまり変わらないと考えられるが、教育と宗教の分野は特に変えられるのではないかと心配されている。

2. クリスチャン学生の心と魂のために。強い世俗主義や物質主義の環境のなかで、聖書的な考え方をもち生きていくのは難しい。また、周りの人々が無力感と無気力感で支配されている中で、続けて伝道する難しさもある。

3. 大学の中で、あるいは教会の中でも、一致があるように。どんなところでも、主の愛が見える団体が一番証しになるのである。■

（以上は、1997/04/07-JOMA総会の講演として語られた時のプリントを、そのまま記載したものです。）■

新規加盟団体の紹介

その一

オーストラリア宣教会

会長：羽鳥 明師

総主事／宣教師：岩下 祐雄師

事務局：156 東京都世田谷区桜 1-23-7

Tel. 03-3426-0945

Fax 03-3426-1570

事務／会計：江見 浄師

歴史：1989年10月に実質的に結成され、オーストラリア・シドニーへ、岩下祐雄宣教師夫妻を遣わし、邦人伝道・救いのために活動しています。小さな働きですが、主の御業のため宣教師を送り、その働きを背後より支援しています。■

その二

保守バプテスト同盟 世界宣教委員会

同盟議長代行：川崎 満師

世界宣教委員長：伊藤 一寿師

事務局：980 仙台市青葉区大町 2-13-27

CBクリスチャンセンター内

Tel./Fax. 022-221-3265

歴史：保守バプテストとして、世界宣教を専門に担当する委員会の必要性が増し、第30回保守バプテスト同盟年次総会（1992年

9月）で、世界宣教委員会設立を決定した。

保守バプテスト同盟出身の宣教師として、ペルーで奉仕している田口吉元・悦子宣教師、コンゴ民主共和国（旧ザイール）で奉仕している石田勝子宣教師、韓国で奉仕している長沢久美子宣教師がいる。■

教会の掲示板に

JOMA 世界宣教地図

は、掲示されていますか。

¥200/一枚

ご注文は、JOMA事務局へ

編集後記

★ 昨年発行できなかった分を今回、合併号として、発行することができ感謝である。記事としては、昨年11月のJOMA25周年記念宣教大会のDr. David Hesselgrave によるメッセージと今年の総会時の劉東源師による講演「中国と香港の学生の現状」を記載した。

★ 97年の総会では、劉東源師と共に、香港JCFで奉仕中のイマヌエル綜合伝道団の蔦田緑乃宣教師も講演された。

★ 発行に際しての諸々の労に感謝する。

発行：海外宣教連絡協力会

発行者：松沢 力男

編集者：平位 全一

住所：101東京都千代田区神田

駿河台 2-1, OCCビル内

太平洋放送協会気付

Tel. 03-3295-4921

Fax. 03-3233-2650

郵便振替：海外宣教連絡協力会

00160-7-106631

